

日本人と外国人日本語学習者の敬語使用に関する考察

—— アンケート調査結果の分析を中心に

魏 春 娥

1 はじめに

現代日本語の中で、敬語は日本語の特徴を表す一つだと言われている。しかし、敬語に苦手意識を持つ人は多い。平成17年度文化庁「国語に関する世論調査」における「あなたは、敬語について難しいと感じることがありますか」との問いに、「ある」と答えたのは全体の67.6%である。また、同調査で「敬語を使いたいと思いますか」との問いに、「(社会生活を営む上で)使いたい」と回答したのは全体の92.5%、「日常生活で、どの程度敬語を使っていますか」の回答は73.9%となっている。さらに、平成19年度文化庁「国語に関する世論調査」において、「国語が乱れていると思いますか」で「どのような点で乱れていると思うか」との問いに対して、「敬語の使い方」と答えたのがトップで67.1%である。この結果から、多くの現代日本人が敬語は必要であると思うが、使うのは難しいと考えていると言えよう。

日本語を使って生活する以上、敬語を避けて通ることはできない。自分が敬語を使用する発話者であった場合に限らず、聞き手としての立場でも相手の使用する敬語の意味を正しく理解できなければ、互いの認識に食い違いが生じ、会話がスムーズに進まないことが度々起こる。

日本人を対象に、敬語に関する意識調査などはさまざまな角度から行われているが、外国人の日本語学習者を対象にした研究はあまり行われていない。

そこで、外国人日本語学習者（以下、日本語学習者）は敬語に関してどのような意識を持っているか、敬語習得や敬語の使用実態がどうなっているかを知るために、アンケート調査を実施した。調査の結果を分析し、日本語学習者の敬語意識及び使用実態を明らかにする。また同調査を日本人母語話者にも実施し、日本語学習者と日本人母語話者の敬語に関する意識、使用実態を比較し、検討する。

2 先行研究

日本語といえば、敬語がよく問題にされ、敬語に関する研究は多く蓄積されている。各年齢層の日本人を対象とした敬語に関する使用意識や使用実態の調査と研究も多数ある。毎年文化庁によって行われている「国語に関する世論調査」には、敬語にかかわる質問がよく設けられている。これまでに敬語使用意識に関する調査（国立国語研

究所2003等)もなされてきた。また、菊地(1997)も敬語について大規模なアンケート調査を実施している。

敬語は日本語学習者が学習するうえで抱えている大きな課題の一つである。日本語学習者を対象とした敬語に関するアンケート調査も実施されている。宮岡・玉岡(2002)は上級レベルの中国系日本語学習者と韓国系日本語学習者の敬語習得について研究している。宮田(2006)は、日本語学習者と日本語母語話者の比較をしたが、内容は敬語動詞に限定した研究である。藤原(2011)は、2人の台湾人と2人の韓国人の日本語学習者を対象とし、日本語学習者が敬語に対していかなる意識を持つかについて調べている。しかし、日本語学習者の敬語に関する使用意識と使用実態を日本語母語話者と比較した研究はまだ少ない。

3 調査の概要

3-1 調査の目的

本調査「日本人と外国人日本語学習者の敬語に関するアンケート調査」(別添資料参照)は、日本人と日本語学習者の日本語の敬語に関する意識及び使用実態を把握するとともに、存在している問題点を明らかにして、今後の日本の国語教育における敬語教育、また日本語学習者の敬語習得に役立てることを目的とする。

3-2 調査項目の設定

本調査は、敬語に関する意識調査と敬語表現の調査の2部から構成されている。まず、前半の意識調査の設問は9問で、問1から問9までとなっている。意識調査の設問は平成7年度から毎年文化庁が行っている『国語に関する世論調査』を参考にして選定した。後半部分の検討は紙幅の都合上省略する。

3-3 調査の対象者

本調査は、日本人と日本語学習者の敬語に関する意識及び敬語の使用実態を明らかにすることを目的としているため、調査の対象者は10代から全年齢層の日本人と日本在住の日本語学習者である。日本人は10代と20代は主に学生であり、それより上の世代は社会人で、山口大学周辺の居住者、職場に勤めている者である。社会人は山口県出身者が一番多かった。日本語学習者は、主に山口大学(吉田キャンパス、宇部キャンパス)および山口県立大学に在籍している留学生である。

3-4 調査期間

調査の時期は、2012年6月上旬から9月下旬にかけてである。

3-5 回答者の内訳

性別 (単位：人)

	日本人	日本語学習者	合計
男性	76	43	119
女性	188	95	283
合計	264	138	402

職業別 (単位：人)

	日本人	日本語学習者	合計
学生	154	138	292
社会人	110	0	110
合計	264	138	402

年齢別 (単位：人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	合計
日本人	72	96	25	16	22	33	264
日本語学習者	2	117	19	0	0	0	138
合計	74	213	44	16	22	33	402

日本人の出身別 (単位：人)

山口	岡山	広島	福岡	長崎	鳥根	佐賀	大分
130	20	18	17	14	10	9	9
愛媛	宮崎	兵庫	大阪	長野	鳥取	茨城	愛知
6	4	4	3	2	2	2	2
京都	沖縄	静岡	熊本	高知	宮城	神奈川	徳島
1	1	1	1	1	1	1	1
鹿児島	香川	岐阜	北海道	合計			
1	1	1	1	264			

国籍別 (単位：人)

日本	中国	台湾	韓国	タイ	アメリカ	スペイン	合計
264	109	14	10	3	1	1	402

4 敬語に関する意識調査の結果と分析

本報告は主に日本人の母語話者と日本語学習者に分け、比較しながら分析する。また、本調査の日本人の被調査者の内10代、20代はほとんど学生である。日本人の学生と社会人は生活環境が異なり、敬語の使用頻度も異なるため、敬語における意識や敬語の使用実態も違うと予想されるので、学生と社会人に分けてそれらの相違を分析する。

意識調査の各設問について、参考文献を引用しながら、分析していく。各設問の集計結果をそれぞれ表と図で示す。また、分析中、引用した回答者の意見は、アンケー

トの自由記述欄から得られたものである。

4-1 敬語は日本語の特徴で大切なものかについて

問1 あなたは、「敬語は日本語の一つの大きな特徴で大切なものである」ということに関してどう思いますか。

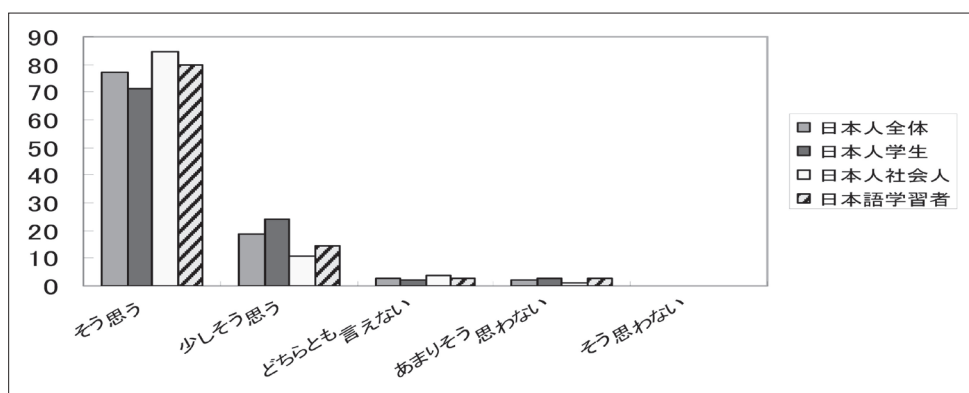
- a そう思う
- b 少しそう思う
- c どちらとも言えない
- d あまりそう思わない
- e そう思わない

問1では、敬語が日本語の一つの大きな特徴で大切なものであるということに関してどう思うかをたずねた。

問1の調査の結果を〈表1〉と〈図1〉に示す。

〈表1〉 敬語は日本語の特徴で大切なものであるか 実数 (%)

	そう思う	少しそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
日本人全体	203 (76.9)	49 (18.6)	7 (2.7)	5 (1.9)	0 (0.0)	264 (100)
日本人学生	110 (71.4)	37 (24.0)	3 (1.9)	4 (2.6)	0 (0.0)	154 (100)
日本人社会人	93 (84.5)	12 (10.9)	4 (3.6)	1 (0.9)	0 (0.0)	110 (100)
日本語学習者	110 (79.7)	20 (14.5)	4 (2.9)	4 (2.9)	0 (0.0)	138 (100)



〈図1〉 敬語は日本語の特徴で大切なものであるか

調査の結果を見ると、「そう思う」と「少しそう思う」を合わせた肯定的な回答は日本人が95.5%で、日本語学習者が94.2%である。両者とも9割以上の高い選択率となっている。しかし、「そう思う」回答は、日本人学生は71.4%で、日本人社会人は84.5%である。日本人社会人は日本人学生より13ポイント高い。アンケートから「敬語の理解は日本人の対人哲学に係わっていると思う」（日本人社会人、60代以上男性）、「今正しい日本語を話せる若者は少ない、正しい敬語を使える若者はもっと少ない」（日本人社会人、60代以上女性）という記述を得た。よって、日本人社会人は敬語が日本語の大きな特徴だと強く感じ、学生より敬語をより大切に扱っていると言えよう。以上のことから、敬語は日本人にも日本語学習者にも日本語の一つの特徴と認識されていることが分かった。

4-2 日本人も敬語の使い方をよく間違えているについて

問2 あなたは日本人も敬語の使い方をよく間違えていると思いますか。

- a そう思う
- b 少しそう思う
- c どちらとも言えない
- d あまりそう思わない
- e そう思わない

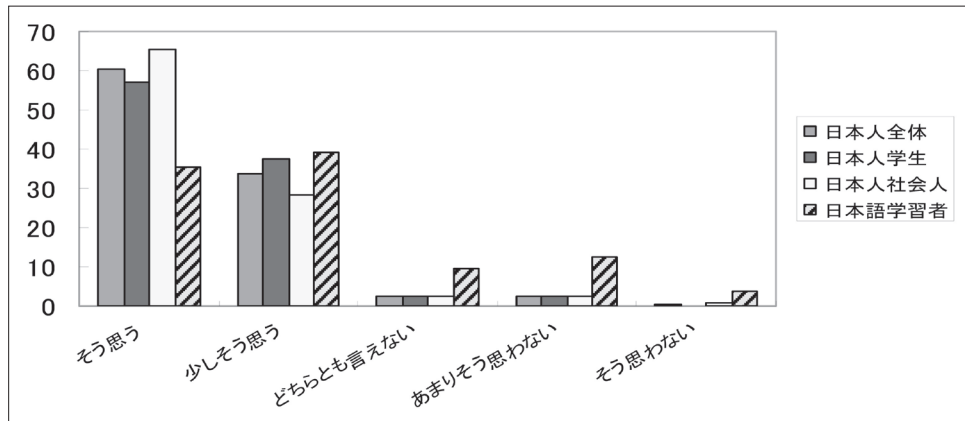
問2は、日本人も敬語の使い方をよく間違えると思うかという質問である。

日本人母語話者自身が敬語の使い方をよく間違えていると聞いたことがある。このことについて、日本人はどう考えているのであろうか、また、日本語学習者側から見ると、母語話者である日本人が、敬語の使い方を間違えることなどありえないと考えるが、どうであらうか。

問2の集計結果を〈表2〉と〈図2〉に示す。

〈表2〉 日本人も敬語の使い方をよく間違えていると思うか 実数 (%)

	そう思う	少しそう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう 思わない	合計
日本人全体	160 (60.6)	89 (33.7)	7 (2.7)	7 (2.7)	1 (0.4)	264 (100)
日本人学生	88 (57.1)	58 (37.7)	4 (2.6)	4 (2.6)	0 (0.0)	154 (100)
日本人社会人	72 (65.5)	31 (28.2)	3 (2.7)	3 (2.7)	1 (0.9)	110 (100)
日本語学習者	49 (35.5)	54 (39.1)	13 (9.4)	17 (12.3)	5 (3.6)	138 (100)



〈図2〉 日本人も敬語の使い方をよく間違えていると思うか

日本人全体では「そう思う」と「少しそう思う」を合わせた肯定的な回答は94.3%であった。この高い選択率から見ると、日本人自身も敬語の使い方をよく間違えていると思っていることが分かった。この結果は日本語学習者にとっては意外かもしれない。一方、日本語学習者の「そう思う」(35.5%)と「少しそう思う」(39.1%)を合わせた肯定的な回答は74.6%である。すなわち、日本語学習者の中には「日本人も敬語の使い方をよく間違えている」と認識している人が全体の4分の3いるということになる。この数はかなり大きいと言える。この中には、日本での生活経験のある人、また、日本人の敬語の使用実態を知っている人が多いと考えられる。しかし、日本語学習者の「そう思う」と「少しそう思う」の74.6%の選択率は、日本人と比べると、20ポイント近い差がある。日本語学習者は敬語が難しいと思っているが、日本語母語話者なら、敬語を正しく使っているのは当然だと考えた結果であろう。とりわけ、それぞれの国で日本語を学習し、日本での生活経験の短い人のほうがそう思っている場合が多いかもしれない。

井上(1999)は、「NHKの1991年の首都圏などの調査で『今後予想される日本語の変化で、これはイヤだ、こうなってはほしくないと思うもの』を選択肢から選んでもらったところ、トップが『敬語が使われなくなる』ことだった」と述べている。このことから、敬語は多くの日本人の生活に不可欠であると言える。しかしながら、日本人も敬語をよく間違えているのはなぜであろうか。日本語の敬語の種類の高さや、敬語の体系的な仕組み、間違えやすい表現などの理由以外に、敬語自体も変質しているということも考えられる。

4-3 敬語を正しく使っているかについて

問3 あなたは敬語を正しく使っていると思いますか。

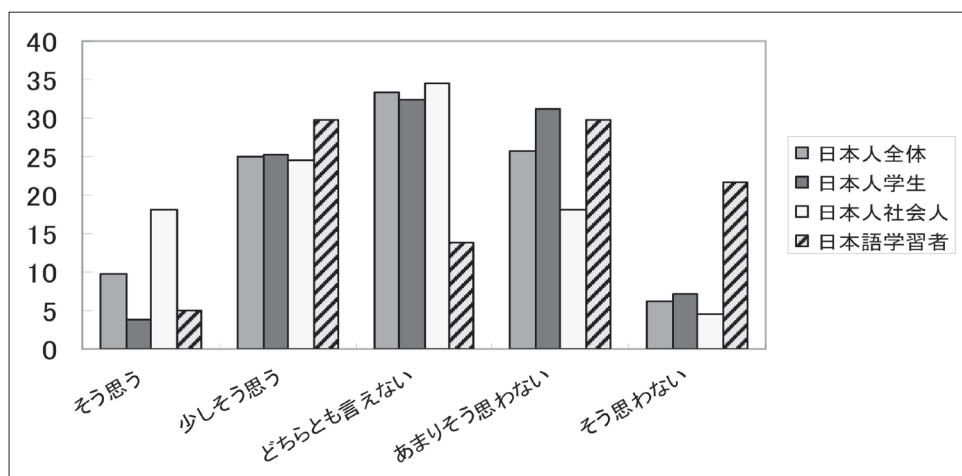
- a そう思う
- b 少しそう思う
- c どちらとも言えない
- d あまりそう思わない
- e そう思わない

問3では、いったい敬語をどのくらい正しく使っているか、日本語母語話者と日本語学習者にたずねた。

問3の集計結果を〈表3〉と〈図3〉に示す。

〈表3〉 敬語を正しく使っていると思うか 実数 (%)

	そう思う	少しそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
日本人全体	26 (9.8)	66 (25.0)	88 (33.3)	68 (25.8)	16 (6.1)	264 (100)
日本人学生	6 (3.9)	39 (25.3)	50 (32.5)	48 (31.2)	11 (7.1)	154 (100)
日本人社会人	20 (18.2)	27 (24.5)	38 (34.5)	20 (18.2)	5 (4.5)	110 (100)
日本語学習者	7 (5.1)	41 (29.7)	19 (13.8)	41 (29.7)	30 (21.7)	138 (100)



〈図3〉 敬語を正しく使っていると思うか

日本人全体の「そう思う」と「少しそう思う」を合わせた数値は34.8%となっている。この結果から見ると、日本人全体では自分が敬語を正しく使っていることにかなり自信がないと言える。日本人社会人の「そう思う」と「少しそう思う」を合わせたもの

は42.7%である。日本人社会人は日本人学生の「そう思う」と「少しそう思う」を合わせた29.2%より13.5ポイント高い。学生はまだ社会に出ていないため、敬語の使用率は社会人より低いと考えられる。社会人は仕事の現場や、人間関係の中で敬語を使いこなせるようになったと考えられる。

4-4 敬語の使い方を他人に指摘されたかについて

問4 あなたは敬語の使い方について他の人から指摘されたことがありますか。

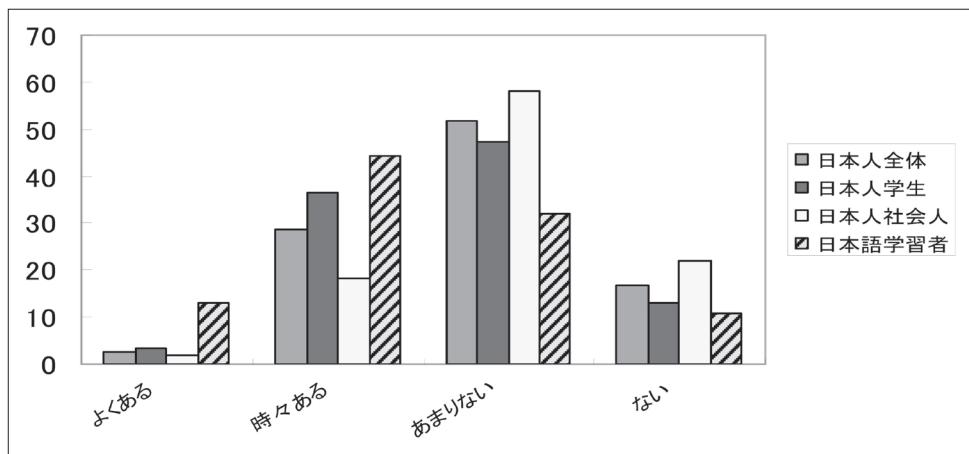
- a よくある
- b 時々ある
- c あまりない
- d ない

問4では、敬語の使い方を他人に指摘されたかどうかをたずねた。

問4の集計結果を〈表4〉と〈図4〉に示す。

〈表4〉 敬語の使い方を他人に指摘されたことがあるか 実数 (%)

	よくある	時々ある	あまりない	ない	合計
日本人全体	7 (2.7)	76 (28.8)	137 (51.9)	44 (16.7)	264 (100)
日本人学生	5 (3.2)	56 (36.4)	73 (47.4)	20 (13.0)	154 (100)
日本人社会人	2 (1.8)	20 (18.2)	64 (58.2)	24 (21.8)	110 (100)
日本語学習者	18 (13)	61 (44.2)	44 (31.9)	15 (10.9)	138 (100)



〈図4〉 敬語の使い方を他人に指摘されたことがあるか

問2で、日本人自身が敬語の使い方をよく間違えていると思う者は全体で「そう思う」と「少しそう思う」が94.3%と多かった。問3の敬語を正しく使っていると思うかについては日本人全体で「そう思う」と「少しそう思う」が34.8%であった。では、問4の「敬語の使い方を他人に指摘されたことがあるか」の回答はどうであろうか。

日本人全体では、「あまりない」と「ない」合わせた数値は68.6%である。ところが、日本人社会人は「あまりない」と「ない」合わせた数値はもっと高く80%に達した。この結果を見ると、日本人は間違っている敬語を使っても、指摘されない場合が多いと言える。「間違いを指摘する人が少ないから」（日本人学生、20代男性）という回答者の記述もあった。また、相手の敬語が気になっているが、相手の間違いを直したら、失礼なことになるので、指摘する人は少ないと言えよう。

一方、日本語学習者は「よくある」と「時々ある」を合わせると57.2%であった。半数を超えた選択率である。なぜであろうか。日本語を習うことを一つの目標として日本に来たため、初対面の人や、日本人の知り合いは敬語をあまり直してくれないが、日本語教師はよく直してくれる場合が多いためと考えられる。

井上（1999）は、次のように述べている。

敬語の間違いの厄介なところは、自分が使っている言い方が誤用なのかどうかを、指摘してもらえないことである。（中略）目上のことばをとがめることは、普通はしない、他人なら放っておくのが普通だ。当人の感情を害さないように気づかうのだ。まわりの人の対策としては、その人が間違いに気づくように、それとなく正しい言い方を聞かせてみせるという奥の手がある。単語や文法のミスなら普通これで気づく。しかし敬語だと相手が沢山の言い方の一つとしか受け取らないこともある。つまり敬語の間違いは、なかなか直せないのだ。というわけで、敬語は、自分で気をつけて、直すしかない。

4-5 敬語の使い方が分からない時の対応方法について

問5 あなたは敬語の使い方が分からない時どうしますか。

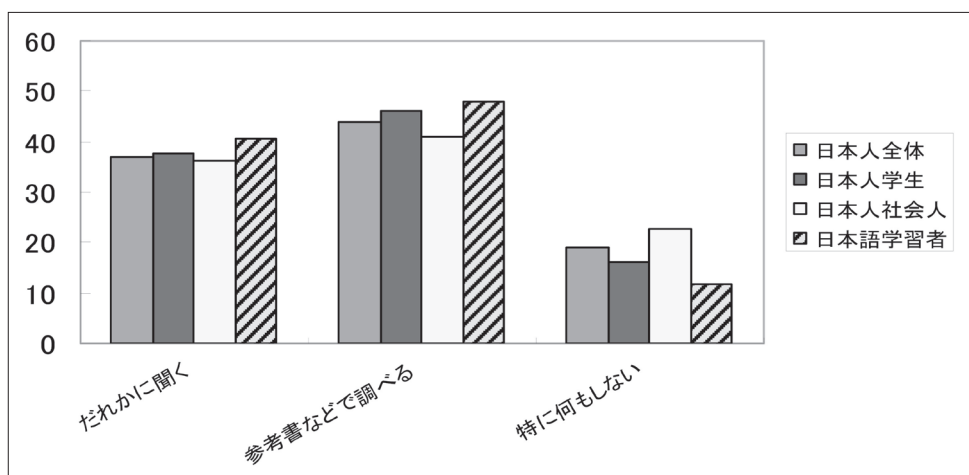
- a だれかに聞く
- b 参考書やインターネットで調べる
- c 特に何もしない

問5では、自分の使っている敬語が正しいかどうか、分からないときの対応方法をたずねた。

問5の集計結果を〈表5〉と〈図5〉に示す。

〈表5〉 敬語の使い方が分からない時の対応方法 実数 (%)

	だれかに聞く	参考書などで調べる	特に何もしない	合計
日本人全体	98 (37.1)	116 (43.9)	50 (18.9)	264 (100)
日本人学生	58 (37.7)	71 (46.1)	25 (16.2)	154 (100)
日本人社会人	40 (36.4)	45 (40.9)	25 (22.7)	110 (100)
日本語学習者	56 (40.6)	66 (47.8)	16 (11.6)	138 (100)



〈図5〉 敬語の使い方が分からない時の対応方法

敬語の使い方が分からないとき「だれかに聞く」と「参考書などで調べる」を合わせた数値は、日本人全体81%、日本人学生83.8%、日本人社会人が77.3%、日本語学習者が88.4%で、いずれも高い選択率となっている。この結果から見ると、日本語学習者の留学生も、母語話者である日本人も、自主的に敬語を身につけようとする意識が強いと言える。

平成17年度文化庁「国語に関する世論調査」における「敬語を使いたいと思いますか」(問7)との問いに、「使いたい」と回答したのは全体の92.5%である。もちろん敬語を使いたいという人たちが、綺麗な正しい敬語を身につけたいと思うのは当然であろう。しかし、正しい敬語を身につけ、間違っている敬語を正しく直してもらう場所や、機会が必要である。

4-6 敬語の間違いの種類について

問6 あなたが耳にする敬語についてどのような間違いが多いと思いますか。(複数回答可)

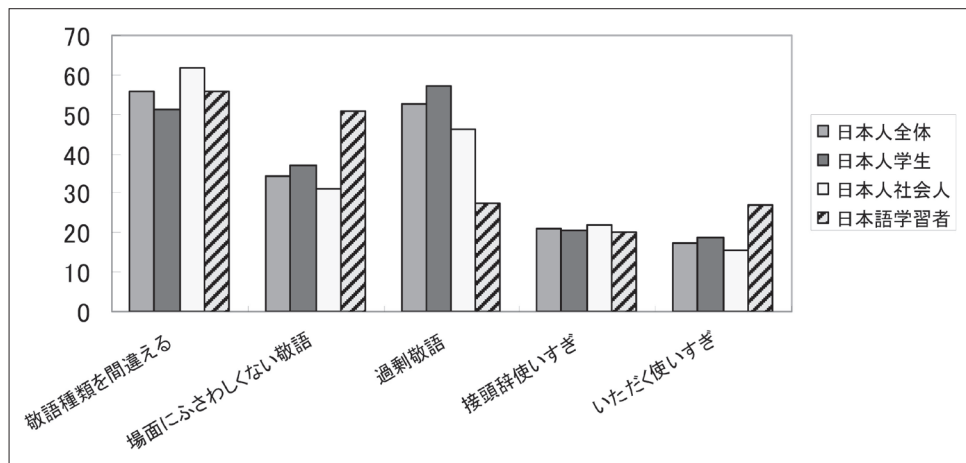
- a 敬語の種類（尊敬語、謙譲語、丁寧語等）を間違えて使っていることが多い
- b 場面に相応しくない敬語を使うことが多い
- c 過剰な敬語を使うことが多い
- d 接頭辞（お、ご）を使いすぎるが多い
- e 「いただく」を使いすぎるが多い
- f その他（ ）

問6では、前の設問を踏まえて、正しくない敬語にどのような間違いが多いかをたずねたものである。

問6の集計結果を〈表6〉と〈図6〉に示す。

〈表6〉 敬語の間違いの種類 実数 (%)

	敬語種類を間違える	場面にふさわしくない敬語	過剰敬語	接頭辞使いすぎ	「いただく」の使いすぎ	合計
日本人全体	147 (55.7)	91 (34.5)	139 (52.7)	56 (21.2)	46 (17.4)	264
日本人学生	79 (51.3)	57 (37.0)	88 (57.1)	32 (20.8)	29 (18.8)	154
日本人社会人	68 (61.8)	34 (30.9)	51 (46.4)	24 (21.8)	17 (15.5)	110
日本語学習者	77 (55.8)	70 (50.7)	38 (27.5)	28 (20.3)	37 (26.8)	138



〈図6〉 敬語の間違いの種類

平成16年度の『国語に関する世論調査』の中に「敬語にどのような間違いが多いと思うか」という質問があった。結果は次のとおりである。

- ・ 尊敬語, 謙讓語, 丁寧語の使い方が間違っている …… 55.2%
- ・ 敬語が必要な場面なのに敬語が使われていないことが多い …… 55.1%
- ・ 敬語が不必要な場面なのに敬語を使っていることが多い …… 35.6%
- ・ 二重敬語などの過剰な敬語を用いた表現が多い …… 25.1%

問6の集計結果を見ると、日本人全体では「敬語の種類の違い」の55.7%の選択率が一番高い。平成16年度の『国語に関する世論調査』調査結果の「尊敬語、謙讓語、丁寧語の使い方が間違っている」と思うが一番で、55.2%であったのと同じである。日本人学生と日本人社会人を比べて見ると、日本人学生は、「過剰敬語」の選択率が一番高く57.1%で、次が「敬語の種類の違い」が多く51.3%である。一方、日本人社会人は、「敬語の種類の違い」が多いと思う人が61.8%と一番多い。次が「過剰敬語」の違いで46.4%である。「敬語の種類の違い」と「過剰敬語」は間違っている敬語の中で多くを占めていると言える。

日本語学習者は「敬語の種類の違い」が55.8%で、「場面に相応しくない敬語」が50.7%の選択率で、ほぼ同等であった。日本語学習者の「敬語の種類の違い」の選択率の高い数値と日本人全体の「敬語の種類の違い」の選択率は、ほぼ同じだが、「場面に相応しくない敬語」の選択率にはかなり差が見られた。なぜ日本語学習者は「場面に相応しくない敬語」の選択率が高いのであろうか。「敬語には上下関係が複雑な場合が多い。学校の先輩がバイトでは後輩になるなど」(韓国人学生、20代男性)との日本語学習者から得た回答のように、日本語学習者は敬語を場および人間関係によって、使い分けることが苦手だと考えられる。

また、日本語学習者は、「過剰敬語」が27.5%で、日本人全体の52.7%よりかなり低かった。日本語学習者は過剰敬語までは知らない人が多いと予想される。一方、「『いただく』を使いすぎる」の選択率が日本語学習者は26.8%で、日本人全体は17.4%で、日本語学習者は日本人全体より10ポイント近く高いことから見ると、日本人によく使われる「～(さ)せていただく」のような表現は気になる人が多いと考えられる。もちろんすべての「～(さ)せていただく」の表現に問題があるのではなく、過剰に使うことが問題とされているのである。

菊地(1997)は、相手(または第3者)に許可を得た場合、相手(または第3者)より恩恵を受けた場合に「～(さ)せていただく」を使うのが適切と指摘している。しかし、店の張り紙に「本日休業させていただきます」のような不適切な例がよく見られる。

4-7 敬語がよく間違っている原因について

問7 あなたは敬語がよく間違っている原因についてどう思いますか。(複数回答可)

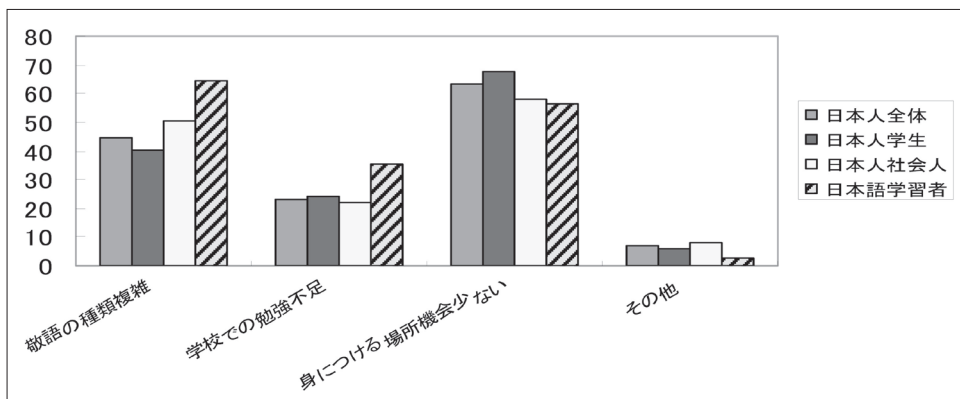
- a 敬語の種類が複雑で、身につけるのが難しいから
- b 敬語を学校で詳しく勉強したことがないから
- c 敬語をしっかりと身につける場所や機会が少ないから
- d その他 ()

問7は、なぜ敬語がよく間違っているか、その原因を明らかにする設問である。

問7の集計結果を〈表7〉と〈図7〉に示す。

〈表7〉 敬語がよく間違っている原因 実数 (%)

	敬語の種類複雑	学校での勉強不足	身につける場所や機会が少ない	その他	合計
日本人全体	118 (44.7)	62 (23.5)	168 (63.6)	18 (6.8)	264
日本人学生	62 (40.3)	37 (24.0)	104 (67.5)	9 (5.8)	154
日本人社会人	56 (50.9)	25 (22.7)	64 (58.2)	9 (8.2)	110
日本語学習者	89 (64.5)	49 (35.5)	78 (56.5)	4 (2.9)	138



〈図7〉 敬語がよく間違っている原因

問7の集計結果から見ると、日本人学生と日本人社会人のいずれも、「敬語を身につける場所や機会が少ない」ことが原因と回答した者が多く、学生で67.5%、社会人で58.2%となっている。「敬語の種類が複雑」は日本人学生が40.3%、日本人社会人が50.9%となっている。「学校で詳しく勉強したことがないから」は日本人学生と日本人社会人のいずれも2割強で、あまり高くない。一方、日本語学習者のほうは、「敬語

の種類が複雑」が一番高く64.5%で、「敬語を身につける場所や機会が少ない」という原因の選択率は56.5%となっている。「学校で詳しく勉強したことがないから」は35.5%で、日本人全体の23.5%と比べると12ポイントの差がある。日本語学習者は日本人より「学校で詳しく勉強したことがないから」が原因と思っている者が多いと言える。

敬語は日本語の特徴の一つだと言われるが、日本の小学校や中学校、高等学校の教科書に敬語は詳しく載っていない。小学校、中学校の教科書には文章の中に出ている敬語以外に載っている敬語がない。高等学校の教科書では、敬語は「尊敬語」「謙譲語」「丁寧語」の3種類に分けられているということだけが記載されている。このことから、敬語を間違っして使っている原因は学校での敬語に関する学習が不足していることにあると予想される。

「文法的な勉強の機会は少しあるけど、感覚的、実践的な場が少ない」（日本人学生、20代女性）という記述があった。

井上（1999）は、敬語を身につける方法について次のように述べている。

正しい敬語を身につけたい人は、普段からほかの人のことばづかいを観察するか、使い方上手な人のを習い覚えるしかない。ことわざでいう「人の振り見て我が振り直せ」だ。もう一つは系統的な「お勉強」だ。学校の国語の時間や、会社での面接や接客の心得の研修のときに、敬語についての話があるかもしれない。しかし時間は限られているだろう。

敬語が間違っして使われているのは敬語の種類が多く、仕組みの複雑さや、身につける場所、機会が少ないからと思われるが、学校の国語教育で体系的な敬語の教育が不足しているのではないだろうか。

4-8 敬語を身につける方法について

問8 あなたは主にどのような方法で敬語を身につけましたか。一つ選んでください。

- a 学校の授業で勉強してきた
- b 家庭で勉強してきた
- c テレビ、ラジオ、新聞等で身につけた
- d 社会生活の中で自然に身につけた
- e その他（ ）

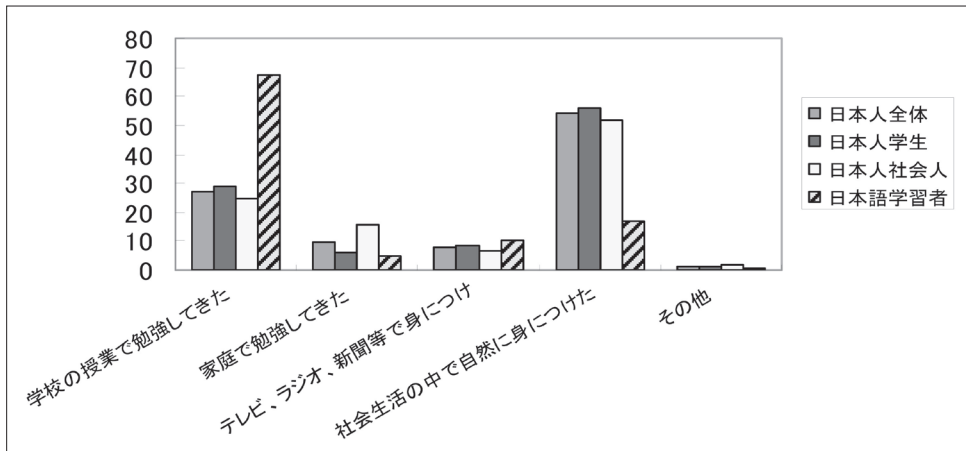
問8では、敬語を身につけた方法についてたずねた。

問8の集計結果を〈表8〉と〈図8〉に示す。

〈表8〉 敬語を身につけた方法

実数 (%)

	学校の授業 で勉強して きた	家庭で勉強 してきた	テレビ、ラ ジオ、新聞 等で身につ け	社会生活の 中で自然に 身につけた	その他	合計
日本人全体	71 (26.9)	26 (9.8)	20 (7.6)	143 (54.2)	4 (1.5)	264 (100)
日本人学生	44 (28.6)	9 (5.8)	13 (8.4)	86 (55.8)	2 (1.3)	154 (100)
日本人社会人	27 (24.5)	17 (15.5)	7 (6.4)	57 (51.8)	2 (1.8)	110 (100)
日本語学習者	93 (67.4)	7 (5.1)	14 (10.1)	23 (16.7)	1 (0.7)	138 (100)



〈図8〉 敬語を身につけた方法

日本人学生と日本人社会人両方とも「社会生活の中で自然に身につけた」者が5割以上となっている。「学校の授業で勉強してきた」は選択率が2割台である。一方、日本人学生は、「家庭で勉強してきた」は5.8%しかいないが、日本人社会人の方は、「家庭で勉強してきた」は15.5%で、9.7ポイントの差がある。「家庭で教えるべきだと思う」(日本人学生、20代男性)という回答者の記述があったが、「家庭での日常会話が少なくなりましたので」(日本人社会人、60代以上女性)との記述にあるように、家庭での会話が少なくなり、敬語を身につける機会も少なくなったと考えられる。

日本語学習者は「学校の授業で勉強してきた」の選択率が7割近い。日本語学習者は日本での社会生活経験が短いので、敬語についての知識はほとんど学校の授業で習ったものである。この結果から見ると、日本人が敬語を身につける方法は社会生活の中でというのが一番多いということが分かった。

平成8年度文化庁「国語に関する世論調査」における「敬語を身につけてきた機会」についての項目では、「学校の国語の授業」54.6%、「家庭でのしつけ」54.5%、「職場（アルバイト先を含む）の研修など」51.4%である。あとは3割以下となっている。

文化庁の調査と本調査とも、敬語を身につける方法や機会は社会の中でということと一致している。文化庁の調査は複数回答で、本調査は択一だが、敬語を身につける方法や場所として家庭の役割がだんだん小さくなってきたと考えられる。特に、日本人学生の回答に反映されている。

4-9 敬語を教科書に詳しく載せるかについて

問9 あなたは、「中学校や高校における学校教育で、敬語の使い方を教科書に詳しく載せ、学生にしっかり身につけさせたほうがよい」という考え方に関してどう思いますか。

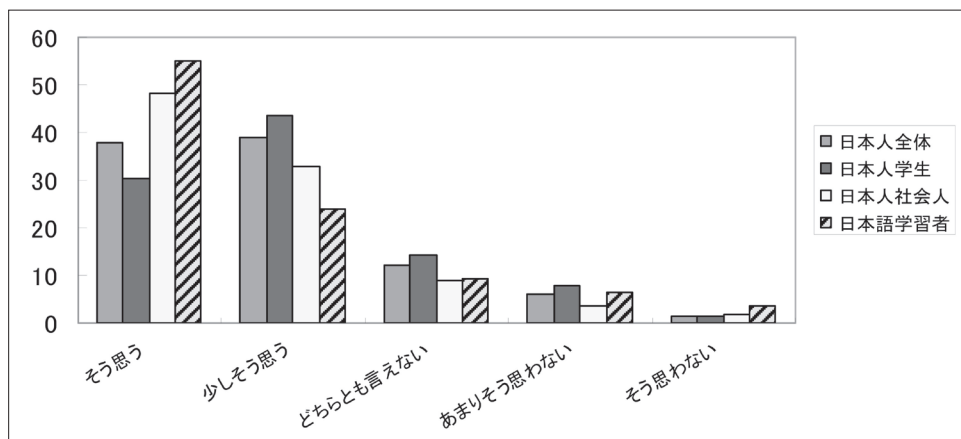
- a そう思う
- b 少しそう思う
- c どちらとも言えない
- d あまりそう思わない
- e そう思わない
- f その他 ()

問9は、敬語は日本人の生活に重要だ、不可欠だという面から、「中学校や高校における学校教育で、敬語の使い方を教科書に詳しく載せ、学生にしっかり身につけさせたほうがよい」という考え方をどう思うかである。

問9の集計結果を〈表9〉と〈図9〉に示す。

〈表9〉 敬語を教科書に詳しく載せるか 実数 (%)

	そう思う	少しそう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	合計
日本人全体	100 (37.9)	103 (39.0)	32 (12.1)	16 (6.1)	4 (1.5)	264 (100)
日本人学生	47 (30.5)	67 (43.5)	22 (14.3)	12 (7.8)	2 (1.3)	154 (100)
日本人社会人	53 (48.2)	36 (32.7)	10 (9.1)	4 (3.6)	2 (1.8)	110 (100)
日本語学習者	76 (55.1)	33 (23.9)	13 (9.4)	9 (6.5)	5 (3.6)	138 (100)



〈図9〉 敬語を教科書に詳しく載せるか

日本語学習者は「そう思う」と「少しそう思う」を合わせた選択率は79.0%となっている。敬語の使い方を学校の教科書に詳しく載せ、学生にしっかり身につけさせたほうがよいと思う者が多い。一方、日本人の学生も社会人も「そう思う」と「少しそう思う」と回答した者が多い。社会人のほうは、「そう思う」と「少しそう思う」を合わせると80.9%で、日本人学生の「そう思う」と「少しそう思う」を合わせた合計は74%となっている。しかし、日本人社会人の「そう思う」の選択率は48.2%で、日本人学生の「そう思う」の選択率30.5%と18ポイント近い差がある。社会人は敬語を学校で学生にしっかり身につけさせることを強く希望していると言える。日本人全体の「そう思う」と「少しそう思う」を合わせた8割近い選択率から見ると、学生も社会人も敬語を教科書に載せ、学生にしっかり身につけさせるという意見に賛成する者が多いことは明らかである。

文部科学省（2010）は、次のように述べている。

口語のきまり、言葉遣い、敬語の用法などについては、小学校及び中学校を通して一貫して指導している。「国語総合」では、それを更に深めさせ、実際の言語活動において用いることができるようにする。なお、敬語については、中学校学習指導要領解説国語編に示しているのと同じく、文化審議会答申「敬語の指針」に示されている尊敬語、謙譲語Ⅰ、謙譲語Ⅱ（丁寧語）、丁寧語、美化語の5種類について、生徒の実態に応じて取り上げることも考えられる

文部科学省（2010）は、小、中、高等学校の教科書に敬語について生徒の実態に応じてとりあげるとを書いているが、実は、小、中、高等学校の教科書に敬語に関するものはあまり見つからない。また、「敬語は、古文の授業で一番勉強した記憶がある」（日

本人学生、20代男性) というアンケートから得られた記述のように、高校の授業は古文での敬語の比重が大きいと思われる、現代敬語にはあまり言及していない。

日本人は敬語を主に学校、家庭、社会の3つの場所で身につけると考えられる。学校の敬語教育はどうであろう。現代敬語について高等学校の教科書には簡単に尊敬語、謙譲語、丁寧語を載せているが、複雑な敬語の仕組みに対しては不十分だと言える。高等学校は進学問題のため、敬語教育を行う時間がないと言われる。また、家庭は親から敬語を学ぶ場であるが、1990年代半ばから、親子関係が友達関係になるにつれて、家庭で敬語を使わなくなり、子供たちが家庭で敬語を身につけるのが難しくなっている^(注1)。問8の結果の、日本人学生の「家庭で敬語を勉強してきた」が5.8%という低い選択率も家庭で敬語を身につけることが難しいことを反映している。

そこで、学生は社会に出て、アルバイト先や仕事の現場で敬語を学ぶことになる。しかし、社会の中には、しばしば批判的に取り上げられる「マニュアル敬語」が多く、場面に相応しくない敬語や、敬語の過剰使用が多いと思われる。『敬語の指針』(2007)は、「マニュアルとは、職場での言語使用、特に接客の場面での言語使用について具体的言語表現などを示すもので、新入職員や臨時職員の指導に用いられるものを指す。また、『マニュアル敬語』への批判とは、マニュアルの中での敬語の示し方、更にそのマニュアルに過度なまでに従った敬語使用への批判である」と述べている。

以上からを見ると、学校教育で敬語教育を強化する必要がある。

敬語習得は学校教育だけではなく、家庭や社会も重要な場として役立っているはずであると考えられる。井上(1999)は、「要するに敬語習得は自発的生涯教育として一生続けるしかないのだ。この背景には、敬語が教養のバロメーターとして働いている事情がある。それを知っているからこそ、人々はまともな敬語を何とか身につけようとしているのである。」と述べている。

一方、敬語を学校の教科書に詳しく載せるべきかどうか、敬語を学校教育で教えるべきかどうかについては、アンケート調査からいろいろな意見が得られた。

- ・ 学校教育で教える必要もあるとは思いましたが、実際に使う機会がなければ、身につかないと思います。(日本人学生、20代男性)
- ・ 現在も授業の中で敬語は習うが、きちんと身につけていると言い難いので、社会で(実地で)身につけていくしかない。(日本人学生、20代女性)
- ・ 問9の「そう思う」を選びましたが、社会で身につけるべきだと思う。わざわざ教科書で載せるべきではないと思う。(日本人社会人、20代女性)
- ・ 教科書で学ぶだけではなく、先生に対して、きちんと敬語が使えるように日常

- 生活の中でも指導する。(日本人社会人、60代以上女性)
- ・ 学校現場では、時間の余裕がない。(日本人社会人、60代以上女性)
 - ・ 教科書で身につくのか疑問。(日本人学生、20代女性)
 - ・ 社会人になると、使う機会が多く、自然に身につく。(日本人社会人、60代以上男性)
 - ・ 子ども達が小、中、高等学校の先生に、「なあなあ」言葉で、下の名前をよび捨てたり、とても気になります、学校では指導されていないのでしょうか。(日本人社会人、60代以上女性)

回答者のいろいろな意見から見ると、敬語を教科書に載せることには賛成だと思いが、それで身につくかは疑問もある。確かに、社会に出ると、敬語を多く使うようになるが、学生時代は勉強しても、使う機会なければ身につかないであろう。

5 考察

ここでは、「日本人と外国人日本語学習者の敬語に関するアンケート調査」の敬語に関する意識の集計結果を分析した。集計結果から、「敬語は大切なものと思うが、使いたくても、使いこなせない」、「敬語を使いこなせない原因」、「敬語の習得方法」(敬語を身につけること)、「日本語学習者の敬語意識」の4つの問題点から、考察していきたい。

5-1 敬語は大切なものと思うが、使いたくても、使いこなせない

本調査の問1は、「敬語は日本語の一つの大きな特徴で大切なものである」ということについてどう思うかたずねた。日本人全体と日本語学習者はいずれも「そう思う」と「少しそう思う」を合わせると9割以上となっている。

問2は「あなたは日本人も敬語の使い方をよく間違えていると思いますか」で、集計結果から、「そう思う」と「少しそう思う」を合わせた数値は、日本人全体は94.3%で、日本語学習者は74.6%となった。日本人全体の高い選択率は、日本人が自分の使う敬語だけではなく、相手の敬語も気になる人が多いのであろうか。日本語学習者は日本人全体より20ポイント少ないが、4人に3人が日本人も間違えていると思っている。これはなぜであろうか。日本語学習者は、母語話者であるため、日本人は敬語を正しく使っていると思っている。しかし、日本で生活しているうちに、日本人も敬語の使い方をよく間違えているということがだんだん分かってきたと考えられる。

問3は「あなたは敬語を正しく使っていると思いますか」で、日本人全体の「そう

思う」と「少しそう思う」を合わせて、34.8%しかいない。日本人全体の低い選択率は謙遜が含まれているかもしれないが、自分が使っている敬語に自信がない人がかなり多いということが分かった。しかも、日本人学生を選択率だけを見ると、もっと低い数値となっている。日本人学生は、まだ社会に出ていない。したがって、敬語の使用経験はあまり多くないため、敬語の使用に自信がないのであろう。また、「どちらとも言えない」は、日本人全体は日本語学習者より20ポイント近く高い。日本人は敬語を使うとき、人間関係や場に相応しいかどうかなどいろいろな配慮をするのに対して、日本語学習者はより簡単な敬語を使い、人間関係もあまり複雑に考えていないのではなかろうか。実際、日本語学習者は留学生であるため、人間関係は複雑ではないであろう。

問5の「敬語の使い方が分からないときどうするか」の回答は、「誰かに聞く」と「参考書やインターネットで調べる」を合わせたものは、日本人全体は8割以上で、日本語学習者はもっと高く9割に近い。

以上から、日本人も日本語学習者も敬語を大切なものと思い、使いたいと思っているが、自信がない、使いこなせないのが実態と言える。

5-2 敬語を使いこなせない原因

本調査の問4の「敬語の使い方を他人に指摘されたことがあるか」の集計結果から、「あまりない」「ない」を合わせたものは、日本人全体は7割近い数値で、日本語学習者は5割である。問2と問4の集計結果から、日本人は相手の敬語が気になるが、あまり直さないことが分かった。日本語学習者は、日本語を勉強しに日本に来ているため、日本人の友達や、日本語の先生が直してくれることが多いと考えられる。

問6の「敬語についてどのような間違いが多いか」という設問には、日本人全体は「敬語の種類（尊敬語、謙譲語、丁寧語等）の間違い」と「過剰敬語の間違い」の選択率が半数を超え、多かった。日本語学習者は「敬語の種類の違い」と「場面に相応しくない敬語」の選択率が多く、半数を超えた。

問7の「敬語をよく間違える原因」について、日本人全体は「敬語をしっかりと身につける場所と機会が少ない」の選択率が一番多く6割以上で、二番目に多かったのは「敬語の種類が複雑」で4割以上となっている。日本語学習者は「敬語の種類が複雑」が一番多く6割を超え、「身につける場所や機会が少ない」が二番目に多く5割を超えた。このことから、日本人も日本語学習者もいずれも「敬語の種類が複雑」と「身につける場所や機会が少ない」が敬語がよく間違っている原因と考えているようである。日本語学習者は、敬語に関する疑問があった場合は、授業で日本語

の先生に聞くことができる。したがって、「身につける場所や機会が少ない」よりも、敬語の複雑さを感じるのであろう。日本人は、特別に敬語を勉強する機会があまりない。主に社会に出て自然に敬語を身につけるため、「身につける場所や機会が少ない」と感じるのであろう。

平成17年度の『国語に関する世論調査』は、「敬語の使い方に間違いが多くなってきていると思うか」とたずねた。結果は「そう思う」「少しそう思う」を合わせたものは8割以上となっている。また同調査で、「敬語の間違いはどのような間違いが多いと思うか」とたずねた結果は、「尊敬語、謙譲語、丁寧語の使い方が間違っている」が第1位となっている。

以上のように、敬語の複雑さ、正しい敬語を身につける場所や機会が少ないことが敬語をよく間違えて使う原因となっている。

また、敬語は生き物のように、変化していることも敬語をよく間違えて使う原因と考えられる。

5-3 敬語の習得方法（敬語を身につけること）

平成8年度文化庁「国語に関する世論調査」における「敬語を身につけてきた機会」の調査結果から、日本人が敬語を身につける機会（場所）は学校、家庭、職場（アルバイト先を含む）が主な場所と考えられる。本調査の間8「あなたは主にどのような方法で敬語を身につけましたか」の集計結果を見ると、日本人は「社会生活の中で自然に身につけた」が一番多く半数を超えた。前述のように、核家族の増加、夫婦共稼ぎの増加、また、親子関係が友達化し、家庭で敬語を使わなくなり、子供たちが家庭で敬語を身につけることが難しくなっていることは事実である。いわば、家庭の本来敬語を身につける主な場としての機能がかなり弱くなってきた。一方、日本語学習者は、日本人とは完全に異なり、主な敬語を身につける方法、機会は「学校の授業で勉強してきた」が一番多く7割に近い。

本調査の間9の「中学校や高校における学校教育で、敬語の使い方を教科書に詳しく載せ、学生にしっかり身につけさせたほうがよい」の集計結果は、日本人全体の8割近くが、「そう思う」であった。一方で「学校現場では、時間の余裕がない」（日本人社会人、60代以上女性）、「教科書で身につくのか疑問」（日本人学生、20代女性）というような心配があるが、家庭は敬語習得の場としての機能が弱くなっているため、学校は敬語習得の場としての機能を強めるべきではなかろうか。日本語学習者は「そう思う」と「少しそう思う」を合わせて9割に近い。日本語学習者は自分の敬語も主に授業で勉強してきた。それゆえ、「敬語を学校の教科書に詳しく載せ、学生にしっ

かりと身につけさせた方がよい」という意見に賛成する人が多いという結果が得られたと考えられる。

5-4 日本語学習者の敬語意識

本調査の集計結果から、母語話者としての日本人と日本語学習者には敬語における意識に相違があることが分かった。

日本語学習者は日本人と同じように敬語を難しいと感じている。一方、日本人と比べると、敬語の使用と習得は一層難しいと言える。

日本語学習者は、日本での生活経験が短く、日本語で話すことも少ないため、敬語を使うとき、人間関係や場に相応しい敬語表現をすることは不得意である。敬語を使いたくても、慌てて適切な敬語表現を探しているうちに、結局問題のない丁寧語だけを使ってしまう場合が多いと考えられる。

調査結果から、日本人は社会に出た後、敬語をだんだん多く使うようになることが分かった。日本語学習者はまだ学生であるため、日本人学生より敬語を使う環境や機会は少ないと言える。したがって、日本語学習者が、敬語を身につけるのは一層難しいと考えられる。以下の自由記述から得られた日本語学習者の回答は、そのことの証明である。

- ・ 外国人にとって、敬語使用の環境がないと敬語の勉強と使用は難しいです。自分が使う敬語がいったい正しいかが分からない場合が多いです。(中国人学生、20代女性)
- ・ ふだんあまり敬語を使う場所がないから、せっかく習った敬語も忘れていくような気がします。やはり言語は使わないといけないと思いました。(中国人学生、20代女性)

一方、日本人側から日本語学習者の敬語理解について、次のような回答が得られた。「日本人に対して、敬語は敬う心構えが基本で、或る意味で自然に発せられるものと思います。外国人に対して、翻訳業以外の方は、理解できれば十分だと感じます。」(日本人社会人、60代以上男性)

この回答から、日本語学習者は敬語を使うべきところに、使わなくても日本人の相手に許されることが多いため、敬語の習得が日本人より難しいことが分かる。したがって、日本語学習者は敬語を使いたい気がなくなると言えるであろう。

以上から、日本語学習者は適切な敬語を使いたいという気持ちはあるが、日本人よりも身につけるのが困難である。

【注】

(1) ウィキペディア 友達親子 ja.wikipedia.org/wiki/ (2012.5.18)

【参考資料】

- 井上史雄 (1999) 『敬語はこわくない』 講談社
- 井上史雄 (2007) 『その敬語では恥をかく』 PHP研究所
- 奥秋義信 (2007) 『勘違い敬語の事典』 東京堂出版
- 萩野貞樹 (2005) 『ほんとうの敬語』 PHP研究所
- 菊地康人 (1997) 『敬語』 講談社
- 国立国語研究所 (1992) 『敬語教育の基本問題 (上)』 国立国語研究所
- 国立国語研究所 (2002) 『国立国語研究所報告118 学校の中の敬語 1 —アンケート調査編一』 三省堂
- 国立国語研究所 (2003) 『国立国語研究所報告120 学校の中の敬語 2 —面接調査編一』 三省堂
- 藤原栄智美 (2011) 「日本語学習者の敬語意識に関する事例研究」『茨城大学留学センター紀要』 9
- 文化審議会答申 (2007) 『敬語の指針』
- 文化庁 (1996) 『国語に関する世論調査』
- 文化庁 (1997) 『国語に関する世論調査』
- 文化庁 (1998) 『国語に関する世論調査』
- 文化庁 (2005) 『国語に関する世論調査』
- 文化庁 (2007) 『国語に関する世論調査』
- 南不二男 (1987) 『敬語』 岩波書店
- 宮田剛章 (2006) 「敬語動詞における日本語学習者の中間言語の量的研究 - 中国人および韓国人学習者と日本語母語話者との比較から」『日本語科学』 19国立国語研究所
- 宮岡弥生・玉岡賀津雄 (2002) 「上級レベルの中国系日本語学習者と韓国系の日本語学習者の敬語習得の比較」『読書科学』 46 (2)、63-7、日本読書協会
- 文部科学省 (2010) 『高等学校学習指導要領解説』

日本人と外国人日本語学習者の敬語に関するアンケート調査

- 問1 あなたは、「敬語は日本語の一つの大きな特徴で大切なものである」ということに関してどう思いますか。
- a そう思う
 - b 少しそう思う
 - c どちらとも言えない
 - d あまりそう思わない
 - e そう思わない
- 問2 あなたは日本人も敬語の使い方をよく間違えていると思いますか。
- a そう思う
 - b 少しそう思う
 - c どちらとも言えない
 - d あまりそう思わない
 - e そう思わない
- 問3 あなたは敬語を正しく使っていると思いますか。
- a そう思う
 - b 少しそう思う
 - c どちらとも言えない
 - d あまりそう思わない
 - e そう思わない
- 問4 あなたは敬語の使い方について他の人から指摘されたことがありますか。
- a よくある
 - b 時々ある
 - c あまりない
 - d ない
- 問5 あなたは敬語の使い方が分からない時どうしますか。
- a だれかに聞く
 - b 参考書やインターネットで調べる
 - c 特に何もしない
- 問6 あなたが耳にする敬語についてどのような間違いが多いと思いますか。(複数)

回答可)

- a 敬語の種類(尊敬語、謙讓語、丁寧語等)を間違えて使っていることが多い
- b 場面に相応しくない敬語を使うことが多い
- c 過剰な敬語を使うことが多い
- d 接頭辞(お、ご)を使いすぎるが多い
- e 「いただく」を使いすぎるが多い
- f その他()

問7 あなたは敬語がよく間違っている原因についてどう思いますか。(複数回答可)

- a 敬語の種類が複雑で、身につけるのが難しいから
- b 敬語を学校で詳しく勉強したことがないから
- c 敬語をしっかりと身につける場所や機会が少ないから
- d その他()

問8 あなたは主にどのような方法で敬語を身につけましたか。一つ選んでください。

- a 学校の授業で勉強してきた
- b 家庭で勉強してきた
- c テレビ、ラジオ、新聞等で身につけた
- d 社会生活の中で自然に身につけた
- e その他()

問9 あなたは、「中学校や高校における学校教育で、敬語の使い方を教科書に詳しく載せ、学生にしっかりと身につけさせたほうがよい」という考え方に関してどう思いますか。

- a そう思う
- b 少しそう思う
- c どちらとも言えない
- d あまりそう思わない
- e そう思わない
- f その他()

次の表現を適切だと思ったら、() に○を付けてください、適切ではないと思ったら、適切ではないと思う箇所に下線をひいて、その下に正しいと考える表現を書いてください。

例 先生はいますか。

- () 正 (いらっしゃいますか。)
- () 1 赤ちゃんにミルクをあげます。
正 ()
- () 2 お客様がお見えになりました。
正 ()
- () 3 来週旅行でヨーロッパへ伺います。
正 ()
- () 4 先生もコーヒーをお飲みになりたいですか。
正 ()
- () 5 全商品お求めやすい価格となっております。
正 ()
- () 6 明日の新年会にぜひご出席してください。
正 ()
- () 7 (自宅で、来客が帰る時に) お気をつけて。
正 ()
- () 8 (店舗の張り紙) 本日休業させていただきます。
正 ()
- () 9 (お弁当のシールに) 電子レンジで温めると、いっそうおいしくいただけます。
正 ()
- () 10 本日クーポン券がご利用できます
正 ()
- () 11 どちらから参られましたか。
正 ()
- () 12 (料理番組の司会者) ねぎを切ってください、水につけていただきます。
正 ()

その他、お気づきの点がありましたらお書きください。

国籍 () 出身 () 都、道、府、県

性別 (男、女) 職業 (学生、社会人)

年齢 (10代、20代、30代、40代、50代、60代以上)

外国人の方は日本語能力試験の成績 (1級、2級、3級、4級)

(N1、N2、N3、N4、N5)

ご協力ありがとうございました